

授業科目等の概要

(医療専門課程作業療法学科夜間部)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			キリスト教概論	対人援助者としての人格形成の一助としてキリスト教に触れ、自己への問いを深めることにより、人間性を磨き、他者との良好な関係を構築できる能力を培う。生命倫理、人間の尊厳を幅広く理解する。	1・前	30	2	○			○			○	
○			行動科学	行動の原理もしくは理論や行動変容技術について、それをリハビリテーション領域に応用する方法を説明できるようになることを目的とする。具体的には、健康教育・患者教育や高齢者の介護予防のための運動や生活習慣の変容、もしくは維持のための基本的な考え方と方法論について、行動分析学の立場から学習し、説明することができる。	1・後	30	2	○			○			○	
○			医療情報処理演習	作業療法における情報の扱い方と伝え方を身につけることを目的とする。具体的には、守秘義務を理解してSNSへの投稿やインターネット上の情報に対する適切な扱い方を身につけ、データをまとめ発表するためのスキルであるエクセル・ワード・パワーポイントなどを活用したレポート・症例報告を作成できるようになる。	1・前	30	2		○		○			○	
○			医療倫理学	医療における倫理を学ぶ基礎として、倫理の概念、倫理学の歴史と代表的な倫理理論の考え方を学習することを目的とする。それを元に、社会における医療の意味、医療に求められる倫理、望ましい医療者患者関係などについての知識、考え方をを用いて、考察ができる。	1・後	30	2	○			○			○	
○			医学用語	カルテの内容を理解し、他職種と円滑にコミュニケーションをとるために必要な医学用語の基礎を習得することを目的とする。具体的には、基本的なリハビリテーション関連用語や略語の意味を理解し、自ら使用できるようになる。わからない単語や略語の意味を辞書や教科書を用いて調べる習慣をつけられるようになる。	1・前	30	2	○			○			○	
○			対人援助論	患者・利用者、関係職種等に対し、医療職として良好な人間関係の構築を目的に、人間関係論、コミュニケーション論を身につけることを学ぶ。具体的には、患者・利用者との治療関係構築のために相応しい会話・面接、環境設定、多職種と連携ができるようになる。	1・前	30	2	○			○			○	
○			解剖学Ⅰ	医療従事者にとって必要不可欠な人体の構造に関して、理解することを目的とする。人体の基本構造の学習に加え、リハビリに必要な臨床解剖についても学習する。リハビリに直接的に関係する肉眼解剖学を中心に、より合理的に理解するための比較解剖学や発生学、更には臨床解剖学についても理解を深める。	1・前	30	2	○			○			○	
○			解剖学Ⅱ	人体を構成する基本的な構造とそれらの立体的な構成を理解することを目的とする。具体的には、中枢神経、末梢神経、自律神経、消化器、泌尿器、内分泌について理解し、説明できる。	1・後	30	2	○			○			○	
○			解剖学実習	人体を構成する基本的な構造とそれらの立体的な構成を理解することを目的とする。四肢・体幹については筋触察を行い、起始・停止を理解する。内蔵については模型・画像を用いた学習により理解する。これらのことを説明することができる。	2・通	60	2			○	○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			生理学Ⅰ	生命現象の仕組み及びその意義を理解し、作業療法に必要な生体の機能の基礎的な事項について学習する。生体は、その基本単位である細胞が集まって組織及び器官を形成し、全体として調和のとれた状態を保っているため、これらの要素の機能及び相互の関連についても理解を深める。	1・前	30	2	○			○			○		
○			生理学Ⅱ	生体の内部環境とそれを維持するために必須である生理機能を学習することを目的とする。具体的には、排泄、エネルギー代謝、栄養の消化と吸収等とこれを調節する内分泌、運動・感覚・中枢神経・末梢神経などについて学習し、含めた生体内部環境の維持機能について分子、細胞、組織レベルで理解し、それらの間の協調・調節機能について生理学な視点を理解し、説明ができる。	1・後	30	2	○			○				○	
○			生理学実習	解剖学・生理学・運動学の講義を踏まえ、環境の変化・運動に対する生体の反応や恒常性維持について学習することを目的とする。人の生理機能を自らの手で計測し、その結果を解析・考察する事により、人体機能のダイナミクスやホメオスタシスが維持されるメカニズムを理解し、レポートを作成し説明できる。	2・前	30	1			○		○			○	
○			運動学Ⅰ	身体運動は、人間の行動を支える基本的な活動である。その障害は日常生活の円滑な遂行を妨げるリハビリの主要な対象のひとつとなるため、基礎運動学では人体の運動器の構造、機能及び身体運動の基本的機構について学習し、病態による障害について考える知識を習得する。	1・後	30	2	○			○				○	
○			運動学Ⅱ	力学、解剖学、生理学などの基礎科目の視点から運動学を捉え、運動のメカニズムについて総合的に理解することを目的とする。具体的には、運動と生体の構造・機能、運動学習、運動のバイオメカニクスについて理解し、説明できる。	2・前	30	2	○			○				○	
○			運動学実習	リハビリにおける身体の姿勢及び動作について、どのように表現するかが重要なため、運動学的及び運動力学的分析の方法を各種運動解析装置を用いて体験することにより、リハビリにおける障害の病態を考える具体的な知識及び方法を理解する。	2・後	30	1			○	○				○	
○			人間発達学	人間発達に関する理論を総合的に概観し、発達段階における正常発達の姿を発達課題その臨床像の視点から整理し、生涯を通じた発達観の習得を目指す。生命の誕生、胎児期から老年期及び死を迎えるまでの一連の流れの中において理解し、生涯発達観について理解を深める。	1・後	30	2	○			○				○	
○			病理学概論	病理学とは病気の原因を明らかにし、その本態を解明することである。病理学は複合的な内容のため、幅広い分野の知識が必要となる。よって、医療人として人体の正常と異常を正しく理解し、臨床現場において患者に対し正しい認識をもてるよう学習する。	2・前	30	2	○			○				○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			リハビリテーション医学	作業療法で関わる事が多い代表的な内科疾患を中心に病態について理解することを目的とする。具体的には、循環器疾患、呼吸器疾患、末梢血管疾患、感染症・アレルギー、生活習慣病、糖尿病、動脈硬化、高血圧、悪性腫瘍などの概念と検査法、治療法、薬理などの概要および主要症候、病態について画像を使用して理解を深める説明することができる。	2・前	30	2	○			○			○	
○			内科学	リハビリテーションの臨床上で必要な整形外科における主要疾患・外傷についての知識を習得することを目的とする。主要疾患・外傷などにおける病態生理、症候、評価・検査・診断、治療、薬理、予後等について、リハビリテーションとの関連を踏まえて理解し、画像を使用して理解を深め、説明することができる。	2・前	30	2	○			○			○	
○			整形外科	脳・脊髄および末梢神経・筋等には系統だった働きがあり、様々な神経学的反応が見られる。神経内科系疾患患者の病態を理解することができることを目的とする。神経内科系の主要疾患とそれともなる障害の特性について、疾患概念、病態、症候、神経学的検査、画像・診断と治療、薬理、予後等における基礎知識を理解し、説明することができる。	2・前	30	2	○			○			○	
○			神経内科学	精神医学の歴史と基本的な考え方や方法論、また主な精神症状や疾病分類について理解するとともに、各種治療法や精神科リハビリテーションの概要、さらに今日的テーマの基本的な考え方や方法論を理解することを目的とする。主な精神現象の発生機序や疾病分類、薬理、精神医学における基本的な考え方を理解し、治療法の種類やその適応について知るとともに今日的な精神医学の基本的事項を学ぶ、説明することができる。	2・前	30	2	○			○			○	
○			精神医学	リハビリテーションに必要な主な小児疾患の概念、病態、症状、画像・診断、治療、薬理を理解することを目的とする。新生児期、小児期の疾患について、先天異常についてが説明できる。リハビリテーションと特に関係の深い疾患について原因、治療法、予後が説明できる。	2・前	30	2	○			○			○	
○			小児科学	臨床医学としてのリハビリテーション医学の実際について理解することを目的とする。リハビリテーションの理念と基本原則を踏まえて、様々な対象疾患・外傷などにおける障害内容と関連する病態生理を把握し、医学的評価とそれに基づく治療理論とアプローチ、予後などについての基礎知識を獲得すること。また、リハビリテーション場面における救命救急について、基礎知識を獲得し対応できる力を身につける。	1・後	30	2	○			○			○	
○			予防・健康管理学	リハビリテーションの思想である医学的、社会的の両面による健康増進と障害予防に関して、幅広い領域からの知見を理解することを目的とする。具体的には、人の健康増進および障害予防を支援するために必要な知識・技術に関して概念的に触れ、介護予防、在宅リハビリテーション、社会参加の支援、さらにヘルスプロモーションの理念を踏襲しながら障害予防の概念に関して理解し、説明できる。	1・後	30	2	○			○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			老年医学	老年期にみられる障害の特性を理解するため、老化のメカニズムや高齢者の生理的特性を学習することを目的とする。具体的には、加齢に伴う生理機能の変化、老年症候群、老年期の心理、老化に伴う生活機能の変化を説明できる。加齢に伴い特徴的に現れる疾患・障害について、その疫学、予後、症候、評価、検査(画像、生理機能検査、血液検査を含む)、診断、治療(栄養管理を含む)を説明できる。	2・前	30	2	○			○			○		
○			臨床心理学	『ひと』の心の深層にある力動について理解し、精神的・身体的健康を維持していくためにはどのようにしたら良いか、そのためにはどのような支援をしたらよいかを知ることによって今後の専門職としての活動の中や普段の生活に行かせることを目的とする。具体的には、心理的不調和や、周囲との関わりに混乱するなどのこころのありようについて、正しく理解し、環境調整を含めて積極的に援助し、問題解決を図る方法を学習する。身近な素材や具体的な話を用いて臨床心理学に関する理論や概念の基礎的知識を身につけ、説明できる。	1・前	30	2	○			○				○	
○			リハビリテーション概論	リハビリテーションの理念と原則を踏まえて、医学及び社会における包括的なリハビリテーション、ならびに障害学の基本概念を習得することを目的とする。具体的には、リハビリテーションのプロセス(ICF・ICIDHの考え方を含む)、各専門職とリハビリテーション医療あり方について学ぶ。さらには、保健・福祉行政における社会的資源とリハビリテーションの関わりなど(特に自立支援や就労支援)についての基礎知識を理解する。	1・前	30	2	○			○			○		
○			地域リハビリテーション学	障害を持って住み慣れた地域で自分らしく生活するという、その地域での作業療法士としての役割について学ぶことを目的とする。具体的には、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステム、それに準じた社会保障制度を学ぶ。さらに、作業療法士の関わる具体的事例を通して、地域における関係諸機関との調整及び教育的役割を含む地域リハビリテーションを説明できるようになる。	2・後	30	2	○			○			○		
○			作業療法概論	作業療法の起源から定義を学び、各分野の作業療法の概要を学習する。また、作業療法の全体像を知るために、基礎的な作業療法の知識を理解する。	1・前	30	2	○			○			○		
○			基礎作業学	革細工及び籐細工を通じて、作業活動の基本的な知識及び技術を習得する。また、これらの作業活動についての作業分析方法を深く理解する。	1・後	30	2	○			○			○		
○			基礎作業学実習Ⅰ	木工、陶工及び金工の作業活動が、運動機能及び精神機能にどのような影響を与えるかを考察し、対象者及び目的に合わせた作業プログラムを作成できるようにする。	1・後	30	1			○	○			○		
○			基礎作業学実習Ⅱ	マクラメ及び機織りの作業活動が、運動機能及び精神機能にどのような影響を与えるかを考察し、対象者及び目的に合わせた作業プログラムを作成できるようにする。	2・前	30	1			○	○			○		
○			基礎作業学演習	基礎作業療法学実習で身につけた知識や技能を使用して、作業療法の基本的な実践過程を理解し、説明することができる。	2・後	30	2	○			○			○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			作業療法評価学概論	各領域における評価方法について学ぶことを目的とする。具体的には、身体・精神・発達・高齢期障害領域の代表的疾患を例に評価仕方を学び、専門基礎科目と関連付けて理解することができる。	1・後	30	2	○			○	○			
○			身体機能評価学	身体領域における代表的疾患に対する評価計画立案のための技能を学ぶことを目的とする。身体障害における各疾患に対しての評価法や画像評価についての知識を習得する。評価計画立案、知り得た情報を課題点と利点に整理できる。	2・後	30	2	○			○	○			
○			精神機能評価学	ICFにおける精神機能の状態を中心とした、精神面における作業療法に必要な情報の収集法を身につけることを目的とする。具体的には、知能・人格・精神症状・作業ニード・対人特徴などの心理検査の対象・特徴を理解し説明できること、確認したい項目について評価法としての観察計画を立てられること、知りえた情報を課題点と利点に整理できる。	2・後	30	2	○			○	○			
○			発達過程評価学	正常発達を理解し、発達障害を学ぶ上での基礎とすることを目的とする。具体的には、発達障害の概念・歴史を知ること、正常発達において、まず運動発達について画像を用いて、理解を深め説明できること、ついで正常発達の観点から、知的発達・社会的発達その他の発達について評価できる。	2・後	30	2	○			○	○			
○			高次脳機能評価学	高次脳機能障害を有する方に対する作業療法評価の知識や評価技術を修得することを目的とする。具体的には、精神・認知機能に関する作業療法評価の知識や技術を学習する。知識には、注意・記憶、空間認知、言語などの高次脳機能障害や情動・思考などが含まれる。技術では、各種検査や画像所見を含む情報収集や面接・観察などの方法を学習し、評価計画立案、知り得た情報を課題点と利点に整理できる。	2・後	30	2	○			○	○			
○			生活活動評価学	作業療法は人の生活行為を広く社会の場において支援する。それら支援を行うには、ADL の概念を理解することを目的とする。具体的には、ADL 支援を行うためには、対象者の生活機能を評価、生活行為への支援方法を検討し、実施していく。基本動作及び日常生活活動を分析し評価できるようになる。	2・後	30	2	○			○	○			
○			作業治療学概論	領域の枠を超えてICFにおける活動参加への支援を行うために、必要な作業療法理論についての知識を習得することを目的とする。具体的には、MTDLP・COPM・MOHOなど作業療法の理論を学び、介入の方法に結びつけて考えられる。	2・前	30	2	○			○	○			
○			身体機能作業治療学	身体障害領域に関する作業療法実践に活用される、各理論・技法を身につけることを目的とする。具体的には、身体障害領域の作業療法における理論・技法を理解し説明できる。	2・後	30	2	○			○	○			
○			精神機能作業治療学	精神科および精神機能に関する作業療法実践に活用される、各理論・技法を身につけることを目的とする。具体的には、精神科作業療法における心理その他の理論・技法を理解し説明できる。	2・後	30	2	○			○	○			

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			発達過程作業治療学	脳性麻痺および知的障害を持つ疾患児に対する基礎知識・作業療法の評価法を実習し、治療への道筋を理解することを目的とする。具体的には、脳性麻痺の分類・疾患像が理解でき、発達障害・知的障害分野の各疾患の疾患像が理解でき、脳性麻痺・知的障害を持つ疾患児に対する作業療法の評価が実施できる。	2・後	30	2	○			○		○		
○			臨床見学	職業人としての望ましい態度・行動を学ぶこと、対象者への関心を持ち観察すること、対象者への作業療法過程の説明を受けて理解すること、見学先の施設の概要を学ぶことを目的とする。主な対象領域は、身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害となる。学生として臨床見学に必要な知識や態度を身につけているかどうかを確認し、自分の課題を明確にして臨床見学に望み、実習後修正できたかどうかを再度確認する。	2・後	45	1			○		○	○		
○			地域臨床見学	地域に暮らす障害者や高齢者について、「生活する人」として活動から参加までを見据える視点を持つことを目標とする。通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションの現場に、2～3名のグループで2回または1回の1日見学を3施設行う。その中で、利用者および職員の方とコミュニケーションをとること、作業療法士の役割、チーム協働について説明ができるようにする。事前にグループ学習により作業療法士の仕事内容を発表し、地域臨床見学後グループディスカッションによりその認識がどのように変化したかを確認する。	1・通	45	1			○		○	○		
○			総合統合演習 I	学習スキルを高めることを目的とする。具体的には、文章力を向上させ、レジュメ、レポート、小論文を書くことができる。解剖学、生理学のノートのとり方を学び、自己学習、グループ学習を通して基礎学力の定着を図る。	1・通	60	4		○		○		○		
合計					46科目	1470時間(88単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
(卒業要件)3年以上在学し、学則第16条により課程修了の認定を受けた者。 (履修方法)3年以上在学し、理学療法士及び作業療法士法の規定により、学則別表2の授業科目を履修する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週